


令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」


事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福島県 】

学校名【 いわき市立平第一中学校 】

1 実践テーマ	【 I ・ III 】
2 実施対象者 (学年・人数)	第2学年 168 名 特別支援学級 18 名 計 186名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	福島県障がい者スポーツ協会から1名、車椅子バスケットボールの講師として1名をお招きし、パラリンピックの歴史や競技を学ぶことをねらいとした。特に、競技を支える側の視点にも着目させ、スポーツは一人では成り立たないことを通して、共生社会で自他の存在を認め合える生徒の育成を目指すことを重点目標とした。
5 取組内容	<p>【ポッチャ体験授業】 13:20~15:10 講師：福島県障がい者スポーツ協会 丸山内雄大氏 〈内容〉 (1)パラリンピックの歴史や競技について (2)ポッチャ競技の行い方 (3)状況に応じた戦術の紹介 (4)チームに分かれての実践</p>  <p>【車椅子バスケットボール体験授業】 13:20~15:10 講師：森谷幸生氏 〈内容〉 (1)車椅子バスケットボール競技の紹介 (2)車椅子バスケットボール競技の行い方 (3)チームに分かれての実践</p>

	
<p>6 主な成果</p>	<p>○本校では、特別支援学級の生徒が交流で普通学級の生徒とともに学習する時間があり、以前から互いに認め合い、支え合うという意識は高かった。その意識を共生社会という視点から考え、行動できる生徒を目指すことで、さらなる高まりが見られた。具体的には、生徒の主体性を生かした生徒会活動や学校行事を通して他者を受け入れる広い心、思いやりのある言動が見られ、本校の教育目標の一つである「社会性に富み、実践力のある人間」に近づけたと思う。今後も他の教育目標と関連づけながら、共生社会で自他の存在を認め合える生徒の育成を目指していく。</p>
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<p>○いわき市では中体連ボッチャ競技大会(特別支援学級対象)が始まったことから、開催に向けたボッチャに関する学級での学習に合わせて本事業を活用した。学級では体験できない学習と実践ができ、生徒および教師にとってもたいへん有意義であった。</p> <p>○車椅子バスケットボールの体験授業では、多くの生徒が車椅子バスケットボールを体験することができるよう講師の先生と話し合い、多くの生徒が体験することができた。体験を通してパラリンピック競技への興味・関心が高まった。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>○保健体育科「体育理論」など、年間指導計画や単元計画との関連を計画的に位置付けることで、知識や体験がさらに深まる。</p> <p>○共生社会について、他教科との関連を明確に教育活動を進めること。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>○今回は2学年と特別支援学級が対象であったので、今後は他教科との関わりを明確にしながら、共生社会(障がいだけでなく、人種、個性など)について、全学年で考える機会(講演や体験も含めて)をつくっていきたい。</p>